

■**円地文子** 小説家。上田万年の次女。50近くによくやく認められ、人間の執念や老醜を主題に多くの傑作を書いた。

えんちふみこ

**日露戦争終**・1905＝ 東京市浅草区向柳原で、言語学者で東京大学国語学教授\_上田萬年の次女に生まれる。

一家が芝居好きだったことから、幼い頃から歌舞伎に親しむ一方、

**明治天皇没**・1912＝ 7歳：

**第一次大戦始**1914＝ 9歳：

幼時より、“病気の問屋”と呼ばれるほど病弱で、学校も欠席しがちだったことから、

**ベル仁条約**・1919＝14歳：東京高等師範小学校を経て、日本女子大附属高女に進むも、

**原敬首相暗殺**1921＝16歳：

水平社結成・1922＝17歳：4年次に中退、以後、英語・フランス語・漢文の個人教授を受け、

**関東大震災**・1923＝18歳：

戯曲及び古典日本文学に深い関心を持つようになる。

**日本時代始**・1926＝21歳：\_〔歌舞伎〕に一幕もの「ふるさと」を発表して、戯曲作家活動を開始、小山内薫に師事し、

共産党事件・1928＝23歳：平林たい子・林芙美子・蔵原惟人らを知る。\_〔女人芸術〕に「晩春騒夜」を発表して、

**世界恐慌**・1929＝24歳：築地小劇場で上演され、処女作となるが、記念パーティーの席上で、小山内が倒れ死去。

海軍軍縮条約1930＝25歳：〔東京日日新聞〕記者の円地与四松と結婚。当時世間的には夫のほうが有名だった。

**満州事変**・1931＝26歳：

五一五事件・1932＝27歳：長女を出産、一人娘となる。

芥川直木賞始1935＝30歳：\_戯曲集「惜春」を処女出版後、小説家に転じ、〔日曆〕に続いて、

二二六事件・1936＝31歳：\_〔人民文庫〕同人となり、高見順・武田麟太郎・田村泰次郎らを知るも、

**日中戦争始**・1937＝32歳：父が死去。

第二次大戦始1939＝34歳：〔東京日日新聞〕に「源氏物語私語」を掲載。「女の冬」「風の如き言葉」「春寂寥」。\_〔女坂〕も含めて、

大政翼賛会・1940＝35歳：「日本の山」「天の幸・地の幸」、

**日米開戦**・1941＝36歳：「南枝の春」、

・・・・・・1942＝37歳：「朝の花々」、

創価学会検挙1943＝38歳：「南支の女」。現代語訳「おとぎ草子物語」など、\_次々発表するも、長く認められず、

**敗戦**・・・・1945＝40歳：空襲で被災し、蔵書一切を焼失、

新憲法公布・1946＝41歳：\_子宮癌の手術を受けるなど、低迷が続くなか、

生活のために、

極東裁判判決・1948＝43歳：「三色堇」「谷間の灯」、

三大事件・1949＝44歳：「朝の花々」「母いまさば」「白鳥のふるさと」「帰らぬ母」「真珠貝」「雪割草」、

**朝鮮戦争始**・1950＝45歳：「母月夜」「荒野の虹」「麗わしき母」、少年少女知識文庫「古典文学教室」、

**独立回復**・・・・1951＝46歳：

TV放送始・・・・1953＝48歳：「あの星この花」「母呼鳥」「雪割草」。日本の古典文学を次々と現代語訳。\_小説「ひもじい月日」を発表し、

自衛隊発足・1954＝49歳：「白ゆりの塔」。現代語訳「竹取物語」。\*女流文学者賞を受賞して、ようやく認められ、

**55年体制始**・1955＝50歳：「春待つ花」「涙の明星」「明日の恋人」、

国連加盟・・・・1956＝51歳：現代語訳「今昔物語」。\_「朱を奪うもの」、

なべ底不況・1957＝52歳：「霧の中の花火」「妻の書きおき」「太陽に向けて 向日葵のように」「妖」\*大作「女坂」完結で、野間文芸賞。

イカサマブーム・1958＝53歳：「女ことば」「秋のめざめ」「女面」「二枚絵姿」。\_「女面」などで、女心を巧みに描く作家として評価され、

美智子妃・・・・1959＝54歳：「薄明のひと」「妻は知っていた」「東京の土」「欧米の旅」「女の秘密」。\_「なまみこ物語」連載開始、

**安保闘争**・・・・1960＝55歳：「私も燃えてゐる」「男というもの」「高原抒情」「離情」「恋妻」「女舞」など、\_なお、少女小説、通俗小説などを

多く書いて、生計を立てていたが、ようやく本格的作家としての地位が確立、

タイタイ病始・1961＝56歳：「愛情の系譜」「花散里」「迷彩」「南の肌」「女を生きる」「男の銘柄」、

全国総合計画1962＝57歳：「霧に消えた人」「女帯」「終の棲家」「女の繭」「やさしき夜の物語」「小さい乳房」「雪折れ」\_「傷ある翼」、

TV宇宙中継始1963＝58歳：「現代好色一代女」「月愛三昧」「鹿島綺譚」「この酒盃を」「結婚相談」、

**東京リビック** 1964＝59歳：「女の淵」「仮面世界」「雪燃え」「焔の」「盗人」「旅よせい」、

大学紛争始・1965＝60歳：「古典文学入門」「人形姉妹」「賭けるもの」「小町変相」「あざやかな女」。\_「円地文子文庫」全8巻。谷崎にかわい

がられ、創設された谷崎潤一郎賞で第一回から選考委員を務める。

いざなぎ景気1966＝61歳：「樹のあはれ」「千姫春秋記」「琴爪の箱」。\_「なまみこ物語」完結し、女流文学賞。

美濃部都知事1967＝62歳：「またしても男物語」「生きものの行方」「ほくろの女」、

霞ヶ関ビル・1968＝63歳：随筆集「灯を恋う」。「夜の花苑」「虹と修羅」

**全共闘**・・・・1969＝64歳：右眼の網膜剥離手術。\_「朱を奪うもの」「傷ある翼」「虹と修羅」三部作で、自らも谷崎潤一郎賞するが、選考委員の一人武田泰淳から、選評をまるごと使って、選考委員の受賞はあってはならないと批判される。

**トルショック**・・・・1971＝66歳：「遊魂」「春の歌」、

**日中国交回復**1972＝67歳：「女人風土記」。\*翌年にかけての現代語訳「源氏物語」全10巻は、与謝野源氏、谷崎源氏に続くものとなる。

**石油ショック**1973＝68歳：左眼の網膜剥離手術。

角栄金脈辞任1974＝69歳：「源氏物語私見」「源氏物語の世界・京都」「花食い姥」「源氏歌かるた」、

クランブル事件1975＝70歳：「都の女」「本のなかの歳月」「川波抄」。白洲正子と「古典夜話 けり子とかも子の対談集」、

田中角栄逮捕1976＝71歳：「兔の挽歌」「彩霧」。現代語訳「夜半の寢覚」「雨月物語・春雨物語」、

JALハイジャック・1977＝72歳：現代語訳「蜻蛉日記・和泉式部日記 王朝日記集」。以降3年、\_「円地文子全集」全16巻、

成田衝突・・・・1978＝73歳：「渦」「江戸文学問わず語り」。随筆集「四季の記憶」、

革新大敗北・1979＝74歳：「食卓のない家」。\_文化功労者、

**貿易摩擦問題**1980＝75歳：「砧」「四季の夢」「私の愛情論」。随想集「花信」、

・・・・・・1981＝76歳：「鴉戯談」、

**中曽根内閣**・1982＝77歳：

ドイツノラット・1983＝78歳：「国文学貼りませ」「男と女の交差点」、

・・・・・・1984＝79歳：「うそ・まこと七十余年」「菊慈童」。\_「円地文子紀行文集」全3巻、

ジャンボ機墜落1985＝80歳：\_女性2人目の文化勲章。左眼の白内障手術、脳梗塞に見舞われながら、創作意欲を失わずにいたが、

バブル始・・・・1986＝81歳：「女形一代 七世瀬川菊之丞伝」。谷中の自宅で\_急性心不全で、没した。

インターネットWikipedia、「この人どんな人」、平凡社百科事典、「目でみる日本人物百科」、「日本の女性」、